

## 英語資格・検定試験に関する質疑応答集（Q & A）

### 0．総論

- 1．大学入試において、なぜ英語の4技能を評価する必要があるのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2．なぜ大学入試で、民間の英語資格・検定試験を活用するのでしょうか。 8
- 3．公平性・公正性を確保するため、複数の資格・検定試験を活用するのではなく、大学入試センターが4技能の共通試験を実施すべきではないでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

### 1．大学入試英語成績提供システムの概要について

- 1．大学入試英語成績提供システムとはどのような仕組みですか。・・・ 10
- 2．大学入試英語成績提供システムを利用することにより、受験生と大学にどのようなメリットがありますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 3．大学入試英語成績提供システムは、全ての大学が利用することになるのでしょうか。また、システムを使わずに、資格・検定試験の結果を、総合型選抜や学校推薦型選抜などの個別入試に利用することはできますか。・・・ 10
- 4．大学入試英語成績提供システムは、大学入学共通テストを受験していなくても利用できますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 5．大学入試英語成績提供システムは、一般選抜のほか、総合型選抜や、学校推薦型選抜のために利用することはできますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 6．大学入試英語成績提供システムには、いつ受験した試験の成績を登録することになるのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 7．受験の機会は年何回でしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 8．成績提供の対象を「大学を受験する年度の4～12月の間の最大2回まで」としたのはなぜですか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 9．異なる資格・検定試験を1回ずつ受験してもよいのでしょうか。・・・ 12
- 10．多くの資格・検定試験を受け、一番成績の良い資格・検定試験の成績を大学入試英語成績提供システムに登録できるのでしょうか。・・・・・・・・・・ 12
- 11．高校3年生より前に受験した資格・検定試験の成績は大学入試英語成績

- 提供システムに登録できますか。．．．．． 1 2
- 1 2 . 大学への成績提供はどのような形で行われるのでしょうか。．．．． 1 3
- 1 3 . 大学への成績提供時期はどうなっていますか。．．．．． 1 3
- 1 4 . 受験期間が A、B、C で重複している期間がありますが、これはなぜですか。．．．．． 1 4
- 1 5 . 大学に提供される成績の内容はどのようなものですか。．．．．． 1 4

2 . 大学入試英語成績提供システムへの参加試験について

- 1 . 大学入試英語成績提供システムによる成績提供の対象となる参加試験は、どのように選ばれたのですか。．．．．． 1 5
- 2 . 大学入試英語成績提供システムへの参加要件とはどのようなものですか。．．．．． 1 5
- 3 . 参加試験と高等学校学習指導要領との整合性が図られていることは、どのように確認したのですか。．．．．． 1 5
- 4 . 参加試験の試験監督はどのような者が行っていますか。．．．．． 1 6
- 5 . 参加試験の採点の質は確保されているのでしょうか。．．．．． 1 6
- 6 . 参加試験のカンニングなどの不正防止策はどうなっていますか。．．． 1 7
- 7 . 参加試験の第三者評価及び自己評価の内容はどうなっていますか。．． 1 7
- 8 . 各試験実施主体は、試験対策問題集に対してどのように考えていますか。．．．．． 1 7
- 9 . 試験当日、公共交通機関の遅れや災害等により受験できなかった場合、どのような措置が取られる予定なのでしょうか。．．．．． 1 8
- 1 0 . 試験当日に機器トラブル等が発生した場合、どのような措置が取られる予定なのでしょうか。．．．．． 1 8
- 1 1 . スピーキングテストなど、試験の実施方法は資格・検定試験によって異なるのでしょうか。．．．．． 1 8
- 1 2 . 大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験は、今後、追加されることはありますか。．．．．． 1 9

### 3. 高等学校の英語教育との関係について

1. 生徒は高校の授業をきちんと受けてさえいれば、英語でコミュニケーションを行う能力が付き、受験にも対応できるのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
2. どのような資格・検定試験を選び、どのような準備をしたらよいか分からないため不安です。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
3. 各資格・検定試験は学習指導要領に対応しているのでしょうか。それはどのように検証されているのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
4. 高等学校学習指導要領のレベルを超えている難易度の試験もあるのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
5. 教師は高校の授業において、どのようなことを大切にすべきでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
6. 高校の英語の授業が、資格・検定試験対策のための授業になってしまわないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
7. 今後はリーディングやリスニングよりも、スピーキングとライティングの学習に力を入れるべきなのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
8. コミュニケーション力重視と言われますが、やはり単語や文法などをしっかりと暗記することは重要なのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
9. 高校生の英語力を高めるためには、入試の仕組みを変えるのではなく、高校の英語の授業改善を進めるよう文部科学省が高校の取組を支援するべきなのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

### 4. 各資格・検定試験の結果と活用について

1. CEFR とは何ですか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
2. 「各資格・検定試験と CEFR との対照表」、「CEFR 対照表に基づく段階別表示」とは何ですか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
3. 「各資格・検定試験と CEFR との対照表」はどのように作成・確認された

- のですか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5
- 4 . CEFR は日本以外でも入試等に使われているのでしょうか。そもそもヨーロッパで作られたものなので日本の大学入試になじまないのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6
- 5 . CEFR は近年新しいものが公表されたと聞きましたが、それによってCEFR 対照表は見直されるのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7
- 6 . 「各資格・検定試験とCEFR との対照表」は今後、見直すことはあるのでしょうか。直前になってスコアと CEFR の見込みが変更されたりしないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7
- 7 . 各資格・検定試験の難易度が上がったたり下がったりして不公平な状況が生じることはありませんか。各試験実施主体が、意図的に難易度を引き下げたりしないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8

#### 5 . 試験実施会場について

- 1 . 参加試験の令和 2 年度の実施日程と試験実施会場はどうなっていますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 9
- 2 . 参加試験の令和 2 年度の実施日程と試験実施会場の正式な発表はいつでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0
- 3 . 受験希望者のニーズを満たせるよう、試験実施会場は確実に確保されるでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0
- 4 . 地域によっては受験できる参加試験が限られるのではないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0

#### 6 . 検定料について

- 1 . 参加試験の検定料はどうなっていますか。・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 2
- 2 . 検定料について、経済的に困難な受験生への割引きなどの配慮はないのでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 2
- 3 . 今回拡充される給付型奨学金において、大学等の受験料は含まれていますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 3

4. 大学等の受験料はどの程度積算されていますか。実際に受験をしなかった場合、減額するのですか。 . . . . . 3 3

7. 障害のある受験生への配慮について

1. 参加試験においては、障害のある受験生への配慮はなされるのでしょうか。 . . . . . 3 4

2. 障害が理由で特定の技能検定を受験できない場合、成績提供はどのように行われますか。 . . . . . 3 4

8. 各大学での参加試験の成績の活用の有無や活用方法について

1. 各大学の参加試験の活用の有無や活用方法はどのようになっていますか。 . . . . . 3 6

2. 大学入試に活用する参加試験は、大学によって異なるのでしょうか。 . . . . . 3 6

3. 大学の中には「CEFR 対照表に基づく段階別表示」の A 1 レベル以上を出願資格とする大学がありますが、検定料を支払ってまで受験する意義はないのではないのでしょうか。 . . . . . 3 7

9. 例外措置について

1. 「大学入試英語成績提供システム」の成績提供の対象には、例外措置があると聞きましたが、どのような内容でしょうか。 . . . . . 3 8

2. 例外措置 1 における「経済的に困難な事情」の条件は何でしょうか。 . . . . . 3 9

3. 例外措置 1 の成績要件が B 2 以上である理由を教えてください。 . . . 3 9

4. 受験年度の 4 月から 12 月までの間に、一定期間海外に在住していた者は、受験年度の 4 月から 12 月までの間に受験した、参加試験と同種同名の海外の試験結果を活用することができるとのことですが、その条件はどのようなものですか。 . . . . . 3 9

5. 受験年度に、病気等のやむを得ない事情により受験できなかった場合、受

- 験年度の前年度の参加試験の結果を活用することができるのとことですが、その条件等はどのようなものですか。 . . . . . 3 9
- 6 . 病気等のやむをえない事情により高校3年時に受験できなかった場合、高校2年時の成績の活用を認める例外措置を定めていますが、万が一に備え高校2年生のうちに資格・検定試験を受験しておいた方が良いでしょうか。 . . . . . 4 0
- 7 . 上記1～3の例外措置を利用する場合の申請方法、必要書類はどうなっていますか。 . . . . . 4 0
- 8 . 既卒者は、受験年度の前年度の試験結果も、大学入試英語成績提供システムの成績提供の対象となるのですか。 . . . . . 4 1
- 9 . 既卒者については、なぜ受験年度に加え、その前年度の成績が大学入試英語成績提供システムの成績提供の対象となるのでしょうか。 . . . . . 4 2

10 . 共通IDについて

- 1 . 共通IDとはどのようなものですか。 . . . . . 4 3
- 2 . 共通IDの有効期限はどうなっていますか。 . . . . . 4 3
- 3 . 共通IDの発行申込には料金がかかりますか。 . . . . . 4 3
- 4 . 大学入学共通テストを受験する予定がない場合でも、共通IDを申し込むことはできますか。 . . . . . 4 3
- 5 . 令和元年度の高校2年生の共通IDの申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。 . . . . . 4 4
- 6 . 令和元年度の高校3年生の共通IDの申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。 . . . . . 4 4
- 7 . 既卒者の共通IDの申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。 . . . . . 4 5
- 8 . 共通ID通知はがきを紛失した場合、記載内容を修正・変更したい場合、どうすればよいですか。 . . . . . 4 6
- 9 . 参加試験の受験申込時に、共通IDを誤って記入した場合はどうなりますか。 . . . . . 4 7

- 1 0 . 参加試験の試験日に欠席した場合はどうなりますか。 . . . . . 4 7
- 1 1 . 参加試験の受験中に、途中退出した場合の成績はどうなりますか。 . . . . . 4 8
- 1 2 . 大学入試英語成績提供システムに登録された2回までの成績の中で、大学出願時に提供される成績を自分で選ぶことはできますか。 . . . . . 4 8
- 1 3 . 共通IDを記入して参加試験を1回のみ受験した場合、大学への提供対象成績はどうなりますか。 . . . . . 4 8
- 1 4 . 共通IDを記入して、参加試験を3回以上受験した場合、どの成績が大学へ提供されますか。 . . . . . 4 8
- 1 5 . 参加試験の受験時に不正を行った場合、大学入試英語成績提供システムに登録された成績はどうなりますか。 . . . . . 4 8
- 1 6 . 共通IDを用いて受験した参加試験に関する情報の確認はできますか。 . . . . . 4 9
- 1 7 . 「英語受験状況確認システム」では何ができますか。 . . . . . 4 9

1 1 . 参加試験の申込について

- 1 . 参加試験にはどのように申し込むのでしょうか。 . . . . . 5 0

1 2 . その他

- 1 . 2 0 2 4 年度以降、民間の英語資格・検定試験に一本化されるのですか。 . . . . . 5 1
- 2 . なぜ、2 0 2 3 年度までは民間の英語資格・検定試験と大学入学共通テストの「英語」を併用するのですか。 . . . . . 5 1
- 3 . なぜ、大学入学共通テストの「英語」の配点を「英語（リーディング）」を100点、「英語（リスニング）」を100点としたのですか。 . . . . . 5 2

## 0 . 総論

Q 1 大学入試において、なぜ英語の4技能を評価する必要があるのでしょうか。

A

グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっています。

このため、高等学校学習指導要領では、多様な人々と、互いの考えや情報を主体的に伝え合うため、英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を総合的に育成することを求めてきましたが、高校3年生の英語力は特に「話す」「書く」に課題があることが調査結果から明らかとなっています。さらに、大学においても、グローバル化時代を担う人材を育成するためには、これら英語4技能の習得は重要です。

このため、大学入試において、高等学校段階までに育成した4技能の英語力を適切に評価することが必要です。このことは、高等学校において4技能をバランスよく育成する授業改善を一層進めることにもつながります。

Q 2 なぜ大学入試で、民間の英語資格・検定試験を活用するのでしょうか。

A

大学入試は、高等学校段階で修得した知識や技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価することを目的としていますが、英語に関しては、約50万人規模で同一日程一斉実施型試験による共通テストとして「話す」「書く」能力を含めた試験を実施することは、日程面も含めて現状において実現は極めて困難です。

一方、民間の資格・検定試験は、4技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、高等学校教育や大学入学者選抜で活用が進んでいます。

(参考)

・大学生の高校生時の英語資格・検定試験の受験状況



約37%（約23万人（推計））（平成27年度文部科学省委託調査より）

・大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用している大学（平成27年度）  
（国立大学）

計28.0%、推薦入試17.1%、AO入試14.6%、一般入試 7.3%

（公立大学）

計22.6%、推薦入試16.7%、AO入試10.7%、一般入試 1.2%

（私立大学）

計39.5%、推薦入試30.7%、AO入試21.2%、一般入試 6.4%

このため、大学入試において4技能を評価することができるよう、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験の活用を推進することとしました。

Q3 公平性・公正性を確保するため、複数の資格・検定試験を活用するのではなく、大学入試センターが4技能の共通試験を実施すべきではないでしょうか。

A

大学入試センターが主体となって4技能評価の共通試験を実施することについても検討しましたが、約50万人規模で同一日程一斉実施型試験による共通テストとして「話す」「書く」能力を含めた試験を実施するためには、特定日に多数の試験監督者や採点者を用意する必要がありますが、必要な人員の確保は困難であると判断し、一定の評価が定着し、年複数回の試験が実施されている資格・検定試験を活用することとしました。

## 1. 大学入試英語成績提供システムの概要について

Q 1 大学入試英語成績提供システムとはどのような仕組みですか。

A

「大学入試英語成績提供システム」は、英語資格・検定試験を活用して、大学入試で英語の4技能を評価することを支援するために大学入試センターが運営するシステムです。

本システムでは、受験生が大学を受験する年度の4月から12月までの期間に、大学入試センターが発行する個人を特定するためのコード（共通ID）を記入して受験した2回までの資格・検定試験の成績を、大学入試センターが集約・管理し、大学の求めに応じて提供します。

Q 2 大学入試英語成績提供システムを利用することにより、受験生と大学にどのようなメリットがありますか。

A

受験生は、大学入試英語成績提供システムにより、大学入試に資格・検定試験の成績が使えるようになることで、高校までに積み重ねてきた4技能の力を、入試においても適切に評価されることとなります。

さらに、志望する大学・学部等ごとに資格・検定試験実施主体に成績証明書の発行を請求し受領した上で、それを各大学に提出することが不要となり、手続面だけでなく場合によっては経費面でも出願の負担が軽減されます。

大学は、受験生が提出する成績証明書の確認や、成績情報の入力作業等の事務作業が縮減されることにより、より簡便に、受験生の英語4技能の能力を評価することができるようになります。

Q 3 大学入試英語成績提供システムは、全ての大学が利用することになるのでしょうか。また、システムを使わずに、資格・検定試験の結果を、総合型選抜や学校推薦型選抜などの個別入試に利用することはできますか。

A

各大学は、資格・検定試験の活用や個別試験により、英語4技能を総合的に

評価するよう努めることが求められていますが、大学入試英語成績提供システムは、大学が、大学入試において英語の資格・検定試験を活用することを支援するものであり、利用するかどうかは大学の判断です。

このため、「大学入試において英語の資格・検定試験を活用するが、大学入試英語成績提供システムは利用しない」あるいは「システムの利用は任意である」という大学も想定されます。

システムを使わずに、資格・検定試験の結果を個別入試に利用する場合には、受験者個人で、各資格・検定試験実施主体が定める手数料の支払や、成績の請求・提出等の手続を行っていただく必要が生じる場合があります。手数料や手続の詳細については、出願先の大学や資格・検定試験実施主体によって異なりますので、必ず事前に御確認ください。

Q 4 大学入試英語成績提供システムは、大学入学共通テストを受験していなくても利用できますか。

A

はい、可能です。ただし、出願先の大学における大学入試英語成績提供システム利用の有無や利用方法について、事前に必ず確認してください。

Q 5 大学入試英語成績提供システムは、一般選抜のほか、総合型選抜や、学校推薦型選抜のために利用することはできますか。

A

はい、可能です。ただし、出願先の大学の大学入試英語成績提供システム利用の有無や利用方法について、事前に必ず確認してください。

Q 6 大学入試英語成績提供システムには、いつ受験した試験の成績を登録することになるのでしょうか。

A

受験年度の4月から12月までの間のうち、資格・検定試験実施主体が個別に定める試験期日までに受験した成績が対象となります。

大学入試英語成績提供システム参加試験の実施日程については、文部科学省ホームページに掲載している資料を参考にしてください。資格・検定試験ごとの最新の情報をお知りになりたい場合、各資格・検定試験実施主体にお問い合わせください。

Q 7 受験の機会は年何回でしょうか。

A

大学入試英語成績提供システムに登録される試験の成績は、受験年度の4月から12月の間に受験した2回までとなります。

Q 8 成績提供の対象を「大学を受験する年度の4～12月の間の最大2回まで」としたのはなぜですか。

A

高等学校や大学等の関係者を交えた議論を経て、受験機会の複数化を図りつつ、家庭の経済的状況や居住地による格差を抑制する観点から、受験年度の4月から12月の間に受験した2回までの試験の成績を提供の対象としました。

Q 9 異なる資格・検定試験を1回ずつ受験してもよいのでしょうか。

A

はい、可能です。

Q 10 多くの資格・検定試験を受け、一番成績の良い資格・検定試験の成績を大学入試英語成績提供システムに登録できるのでしょうか。

A

共通IDを記入して受験した資格・検定試験2回までの成績が大学入試英語成績提供システムに登録されますので、受験生が資格・検定試験の受験後に、登録する成績を選ぶことはできません。

Q 11 高校3年生より前に受験した資格・検定試験の成績は大学入試英語成

績提供システムに登録できますか。

A

原則として、高校3年生（受験年度）の4月から12月までの間に受験した結果を活用することとしています。

ただし、

経済的に困難な事情を有する方、

離島・へき地に居住又は通学している方、

高校3年生のときに病気やけがにより90日以上入院した方については、例外措置として、高校2年生のときに受験した資格・検定試験の成績を、大学入試英語成績提供システムに登録できることとしています。

Q12 大学への成績提供はどのような形で行われるのでしょうか。

A

大学入試センターにおいて、大学入試英語成績提供システムを利用する大学からの請求に基づき、その大学の入学志願者の資格・検定試験の成績を、システムを通じて提供します。

Q13 大学への成績提供時期はどうなっていますか。

A

大学への成績提供時期は、総合型選抜が9月から、学校推薦型選抜が11月から、一般選抜が2月から実施されることに合わせ、大学入試センターにおいて、以下のとおり3つの受験期間ごとに定めています。

受験期間 A 大学への成績提供時期：令和2年9月以降

受験期間 B 大学への成績提供時期：令和2年11月以降

受験期間 C 大学への成績提供時期：令和3年2月以降

参加試験の各試験実施日がどの受験期間にあたるかについては、現在大学入試センターにおいてわかりやすい情報発信に向けて、情報を整理しています。

Q 1 4 受験期間が A、B、C で重複している期間がありますが、これはなぜですか。

A

受験期間 A、B、C は、各資格・検定試験の実施日から成績が確定し、大学入試センターに当該成績情報が提供される日までをもとに設定されています。資格・検定試験によって成績が提供される日が異なるため、同じ月に実施される資格・検定試験であっても、異なる受験期間の扱いとなる場合があります。

Q 1 5 大学に提供される成績の内容はどのようなものですか。

A

大学へ提供される成績は、以下のとおりです。

大学へ提供される項目	提供の有無
総合スコアの C E F R 段階別表示	全資格・検定試験について提供
総合スコア	全資格・検定試験について提供
4 技能別の C E F R 段階別表示	一部の資格・検定試験について提供
4 技能別のスコア	一部の資格・検定試験について提供
合否	一部の資格・検定試験について提供

## 2. 大学入試英語成績提供システムへの参加試験について

Q 1 大学入試英語成績提供システムによる成績提供の対象となる参加試験は、どのように選ばれたのですか。

A

資格・検定試験実施主体から大学入試センターに対して申し出があった資格・検定試験のうち、試験内容や試験実施体制等が大学入試に活用する上で必要な水準及び要件を満たしていることを、センターが定めた参加要件に基づき確認された試験が選ばれています。

Q 2 大学入試英語成績提供システムへの参加要件とはどのようなものですか。

A

大学入試センターにおいて、資格・検定試験実施主体としての適合性（継続性のある組織・経営体制であること等）や、試験が日本国内で広く実施された実績があること、高等学校学習指導要領との整合性が図られていること、採点の公平性・公正性や質を確保するための方策を公表していることなどを要件としています。

詳しくは、「大学入試英語成績提供システム参加要件」( 大学入試センターホームページへリンク)を御参照ください。

Q 3 参加試験と高等学校学習指導要領との整合性が図られていることは、どのように確認したのですか。

A

各資格・検定試験と高等学校英語の学習指導要領との整合性を確認するため、学習指導要領が育成を目指す能力と、各資格・検定試験において評価する能力に整合性があるか、学習指導要領に基づく指導において取り上げられる言語使用の目的や場面と、各資格・検定試験がねらいとする言語使用の目的や場面に整合性があるか、

などの点を中心に確認を行いました。

具体的には、各資格・検定試験実施主体から、試験の目的・出題方針、4技能ごとの測定しようとする能力及び試験の各問題と学習指導要領の関連等について記載した資料と、実際の試験問題の提出を受け、これらを踏まえ、英語教育の専門家、高等学校英語教育の教育課程の基準の専門家（教科調査官）及び英語教育を所管する文部科学省職員といった、実際に高等学校学習指導要領の作成（改訂）を行っている有識者及び職員が、整合性の有無を確認しました。

Q 4 参加試験の試験監督はどのような者が行っていますか。

A

大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験の試験監督については、参加要件として「試験監督の公平性・公正性を確保するための方策を公表していること」を求めており、資格・検定試験ごとに、以下のとおり公表しています。

また、受験生の所属高等学校等の教職員が、会場ごとの実施責任者及び各室ごとの試験監督責任者とならないようにしています。

#### 試験監督の考え方（PDF）

Q 5 参加試験の採点の質は確保されているのでしょうか。

A

大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験については、参加要件として「採点の質を確保するための方策を公表していること」を求めており、資格・検定試験ごとに、採点者の応募資格、算定者の選出基準、採点者の質の向上策、採点体制について、以下のとおり公表しています。

#### 採点者の応募資格、採点者の選出基準、採点者の質の向上策、採点体制（ライティング）（PDF）



採点者の応募資格、採点者の選出基準、採点者の質の向上策、採点体制（スピーキング）(PDF)

Q 6 参加試験のカンニングなどの不正防止策はどうなっていますか。

A

大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験については、参加要件として、「不正、情報流出等の防止策及び不測の事態発生時の対処方を公表していること」を求めており、資格・検定試験ごとに、以下のとおり公表しています。

不正防止対策 (PDF)

Q 7 参加試験の第三者評価及び自己評価の内容はどうなっていますか。

A

大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験については、参加要件として、「試験の内容、実施体制及びテストの信頼性・妥当性等について、第三者機関による評価又は第三者が参画する厳格な自己評価が行われていること」を求めており、資格・検定試験ごとに、以下のとおり公表しています。全ての試験実施主体が第三者機関による評価を実施（予定を含む）しています。

第三者評価及び自己評価について (PDF)

Q 8 各試験実施主体は、試験対策問題集に対してどのように考えていますか。

A

試験実施主体においては、仮に試験対策問題集を作成している場合であっても、問題集を作成する組織と、試験問題を作成する組織を別組織とする、問題集の著者、編集者、出版社は実際の試験内容にアクセスできないようにするな

どの厳格な対応をとっています。各試験実施主体の試験対策問題集に対する考え方は以下のとおりです。

試験対策問題集作成についての考え方（PDF）

Q 9 試験当日、公共交通機関の遅れや災害等により受験できなかった場合、どのような措置が取られる予定なのでしょうか。

A

実施当日に全く受験しなかった場合は、成績は大学入試英語成績提供システムに登録されず、原則として、2回までのうちの1回分に該当しませんので、この1回分については機会を改めて受験することが可能です。また、試験回によっては再試験等の措置が取られることとなっていますが、詳しくは以下の各試験実施主体における対応策を御覧ください。

トラブル等発生時の再試験実施の可否及び対応策等について（PDF）

Q 10 試験当日に機器トラブル等が発生した場合、どのような措置が取られる予定なのでしょうか。

A

機器の不具合が発生した場合、例えば、予備機器へ速やかに取り換え、別室で受験し、不具合が発生した箇所からの再出題とするなどの対応が予定されていますが、詳しくは以下の各試験実施主体における対応策を御覧ください。

トラブル等発生時の再試験実施の可否及び対応策等について（PDF）

Q 11 スピーキングテストなど、試験の実施方法は資格・検定試験によって異なるのでしょうか。

A

試験の実施方法については、例えば、スピーキングテストについては、対面式で行う場合や、タブレットやパソコンなどを使用したC B T方式で行う場合

など、資格・検定試験によって異なります。

Q 1 2 大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験は、今後、追加されることはありますか。

A

大学入試センターにおいて、成績提供の開始を希望する年度の前々年度の6月に参加申込みの受付を行っています。

そのため、大学入試英語成績提供システムへの参加の申し出があり、参加要件を満たしていることが確認されれば、参加試験が追加されることとなります。

なお、令和元年7月にはケンブリッジ英語検定4技能CBT(Linguaskill リングスキル)(実施主体:ケンブリッジ大学英語検定機構)が参加する資格・検定試験としての申請がありました。今後、大学入試センターにおいて、必要な手続を経て、参加の可否が決定される予定です。

### 3 . 高等学校の英語教育との関係について

Q 1 生徒は高校の授業をきちんと受けてさえいれば、英語でコミュニケーションを行う能力が付き、受験にも対応できるのでしょうか。

A

これまでの高校教育も、授業を通して、英語でのコミュニケーションに必要な4技能を総合的に育成することとしていました。今後、「大学入試英語成績提供システム」の活用により、高校までで培った英語力が入試において総合的に評価されることとなります。

現行の学習指導要領に示された趣旨に沿ったとおりの授業が行われていれば、各資格・検定試験に対応できる力をつけることは十分に可能です。授業の中で、具体的なコミュニケーションの場面を設定し、目的や場面、状況に応じて読む、聞く、話す、書く言語活動を行うことが重要になります。また、授業で身に付けた4技能の力を評価するパフォーマンス評価を通して、自分の苦手な点を確認し改善していくことも大切になります。

なお、英語を使って読む・聞く・話す・書くことができるようにするためには、学校の授業を受けるだけでなく、家庭において、自分にどのような力が足りないか、どのような学習がさらに必要かなどを自ら考えて、計画的・継続的に学習に取り組むことが必要です。このこと自体は、入試の在り方とは関係なく、これまで同様、今後も引き続き重要であることに変わりありません。

Q 2 どのような資格・検定試験を選び、どのような準備をしたらよいか分からないため不安です。

A

それぞれの資格・検定試験は、異なる目的や特徴を持って行われています。海外の大学への留学に当たって活用されている試験（TOEFL iBT、IELTS、ケンブリッジ英語検定）、国内の大学で求められる英語力を評価する試験（TEAP）といった目的の違いや、目指すレベルに合わせて試験自体が異なるもの（英検、ケンブリッジ英語検定、GTEC Advance/core/basic）と、一つの試験で幅広い英語力を評価するもの（GTEC CBT、TOEFL iBT、IELTS、

TEAP) という実施方法の違いもあります。

自分の興味関心や現在の英語力、将来の進路希望等に合わせて試験を選択することが大切です。

どのような形式で、どのような問題が出題されるのかが分かるよう、各試験実施主体は、過去に出題した問題やサンプル問題等を無料で見られる形で掲載しています。

試験ごとに内容や出題形式には特徴があるものの、実際に問われる力は、学習指導要領が育てようとしている力と齟齬はありません。また、いずれの試験も、「話すこと」「書くこと」については、特定の正解を求める問題ではなく、課題に対して、自分自身の考えなどを表現できるかを問う問題が出題されます。普段の授業の中で、こうした課題に取り組んでおくことで、結果的に各試験にも対応した力が育つこととなります。

Q 3 各資格・検定試験は学習指導要領に対応しているのでしょうか。それはどのように検証されているのでしょうか。

A

文部科学省において、実際に学習指導要領の改訂や解説の作成を行っている職員や、外部の有識者が、各資格・検定試験の4技能試験の実施内容と、高等学校学習指導要領が設定している目標や内容と齟齬がないことを確認しています。

Q 4 高等学校学習指導要領のレベルを超えている難易度の試験もあるのではないのでしょうか。

A

試験によっては、留学に必要な英語力を測定することを目的とした試験も含まれるなど、各試験の難易度に違いはありますが、学習指導要領はいわば最低基準であり、現在の大学入試と同様に、難易度の高い試験問題を出題すること自体には問題はなく、またそれによって学習指導要領と整合性がとれていないということにはなりません。

CEFR との対照表などを参考に、各試験の目的や測定可能なCEFRレベルの範囲等を判断して、生徒一人一人に合った試験を受験できるよう、文部科学省、大学入試センター及び各試験実施主体が提供する情報を御活用ください。

Q5 教師は高校の授業において、どのようなことを大切にすべきでしょうか。

A

現行学習指導要領及び次期学習指導要領において示されている、4技能を使ってコミュニケーションを図るための力を育成することが求められます。そして、各資格・検定試験のスピーキング、ライティングの問題は、特定の文法や表現の知識さえあれば解けるという問題（いわばクイズのような問題）ではなく、答えが一つでない課題に対して、知識を活用しながら、与えられた課題に対して、どのように自分の考えを表現するかという評価（パフォーマンス評価）となっています。

そのためには、適切な課題を設定し、生徒が目的・場面・状況等に応じて読む・聞く・話す・書く言語活動を充実することが大変重要です。また、指導の改善や生徒自身の学習の改善のため、授業を通して身に付いた4技能の力を評価するパフォーマンス評価を行うなど、学習評価の改善も大変重要になってきます。

Q6 高校の英語の授業が、資格・検定試験対策のための授業になってしまわないでしょうか。

A

これまでの大学入試は、英語の4技能を適切に評価できておらず、また、特に文法等の知識が問われる比重が高かったことから、実社会のコミュニケーションで求められる力と受験で求められる力が必ずしも一致せず、ややもすると入試対策が優先されていると言われてきました。

実際のコミュニケーションで使える力を付けていくことで、結果的に大学入試においても評価される力を付けることとなりますので、今後は、大学入試で

4技能を評価することにより、実社会で使える力が受験で求められる力かという二項対立に悩まされることはなくなります。

もちろん、試験で高い点数を取ることに特化した小手先のテクニク的なものを教えこむだけの授業は、高等学校の授業として適切でないことは言うまでもありません。

Q7 今後はリーディングやリスニングよりも、スピーキングとライティングの学習に力を入れるべきなのでしょうか。

A

重要なことは4技能のバランスと、それらを統合する力を育てることです。

しかし、これまでの高校生の英語力においては、自分の考えを話したり書いたりして発信する力に課題があるとされてきました。

4技能のバランスを取るためには、これまで以上に、「話すこと」「書くこと」の指導に力を入れる必要があります。他方で、「読むこと」「聞くこと」についても、目的や場面、状況に応じて読んだり聞いたりして要点等を理解することなどに課題があります。

4技能のバランスはもとより、「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」を含めた「学力の3要素」を授業を通じてバランスよく育てることが求められています。

Q8 コミュニケーション力重視と言われますが、やはり単語や文法などをしっかりと暗記することは重要なのでしょうか。

A

確かに、語彙や文法の知識はコミュニケーションを支えるものとして重要です。授業においては、「文法かコミュニケーションか」という二者択一ではなく「コミュニケーションの中で、語彙や文法などをどう理解し、使えるようにするか」ということが重要になります。

具体的には、穴埋め問題や語順入れ替え問題などができるようにすることを目指すのではなく、適切な課題を設定し、実際に英語で考えや情報を話したり書いたりして伝え合う中で、目的や場面、状況に応じて文法事項等を活用する

ことができるようにすることを旨とするを通して、それらの知識を理解し定着させることが重要です。

Q9 高校生の英語力を高めるためには、入試の仕組みを変えるのではなく、高校の英語の授業改善を進めるよう文部科学省が高校の取組を支援するべきなのではないでしょうか。

A

入試改革よりも先に、英語力向上のための高校における英語教育の充実を進めています。文部科学省では、各都道府県教育委員会がそれぞれの地域の実態を踏まえた「英語教育改善プラン」を作成し、目標を設定して英語教育の充実のための取組を進めることを支援するとともに、授業改善のヒントとなる授業動画等を公表したり、学習指導要領の説明のために都道府県教育委員会等が行う研修に文部科学省職員を派遣したりしています。また、外部専門機関との連携により、5年間かけて各地域の「英語教育推進リーダー」を育成し、リーダーが各地域の英語の授業改善のための研修等の取組を行っています。発信力の強化のために、オンラインを活用した新しい研修システムの実証研究も行っています。

さらに、先端技術を活用して、より効果的に高校生の英語力を高める取組を進めるため、学校におけるICT環境整備も進めています。

大学入試改革における4技能の重視は、このような高等学校の授業改善を通して培われた高校生の英語力が大学入試で適切に評価されるようにするために重要なものと考えています。



#### 4 . 各資格・検定試験の結果と活用について

Q 1 CEFR とは何ですか。

A

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning、teaching、assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) は、欧州評議会(Council of Europe)が作成した、英語などの各言語の学習者の言語運用能力について、その言語を使って「何ができるか (CAN-DO)」という形で表したものであり、国際的に広く活用されています。

Q 2 「各資格・検定試験と CEFR との対照表」、「CEFR 対照表に基づく段階別表示」とは何ですか。

A

「各資格・検定試験と CEFR との対照表」は、各大学が資格・検定試験を入試で活用しやすくするため、各試験のスコアと CEFR のレベルとの対応関係を示したものとして文部科学省が作成しているものです。

「CEFR 対照表に基づく段階別表示」とは、各資格・検定試験のスコアを、「各資格・検定試験と CEFR との対照表」に示す 6 段階 (A1、A2、B1、B2、C1、C2) に換算して表示したものです。

Q 3 「各資格・検定試験と CEFR との対照表」はどのように作成・確認されたのですか。

A

CEFR の対照表の作成に当たっては、各試験実施主体が独自に、CEFR の能力記述文 (外国語で ~ をすることができるという形で示したものを) を踏まえ、各々の試験のスコアが CEFR の 6 段階表示のどのレベルに対応するかを設定しました。この手順は、CEFR の作成主体である欧州評議会が作成した、語学テストを CEFR に関連付ける際のマニュアルに基づいて行いました。

文部科学省が示している「各資格・検定試験と CEFR との対照表」は、各試験実施主体が設定した CEFR とスコアの対応関係をまとめて示したものです。文部科学省が設置した専門家による作業部会において、各試験実施主体の CEFR の関連付けが妥当に行われているかどうかを確認しています。

また、「大学入試英語成績提供システム」の運用開始後も、各試験実施主体は、設定された CEFR との対応関係に基づいて適切に試験が運用されていることについて、大学入試センターに対して報告しなければならないこととしています。

Q 4 CEFR は日本以外でも入試等に使われているのでしょうか。そもそもヨーロッパで作られたものなので日本の大学入試になじまないのではないのでしょうか。

A

CEFR は、世界各国で様々な活用がなされています。例えば、大学が海外から学生を受け入れたり、外国人が在留資格を得たりするための言語運用能力の基準として使われたり、語学に関する授業のシラバスや教材が想定するレベルなどについて、CEFR の 6 段階のレベルを使って示すことなどが、国際的に行われています。

我が国においても、以前から中学校や高校において、各学校が生徒の学習到達目標を設定するに当たって、CEFR を参考にすることができることを示してきました（「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定の手引き」平成 25 年 3 月文部科学省初等中等教育局作成）。

CEFR の作成の根底には、欧州評議会が掲げる「複言語主義 (plurilingualism)」という考え方があります。欧州と我が国においては状況の異なるところもありますが、「複言語主義」が掲げている、単に特定の言語の運用能力を高めることにとどまらず、生涯を通して自律的に言語を学んでいくための資質・能力を身につけるという考え方は、「主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うことを掲げた、新高等

学校学習指導要領における外国語教育の目標とも対応しているものです。

新学習指導要領における外国語教育の目標の考え方については、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「外国語編 英語編」に詳しく述べられています。

Q5 CEFR は近年新しいものが公表されたと聞きましたが、それによってCEFR 対照表は見直されるのでしょうか。

A

欧州評議会では2018年2月にCEFRの増補版(Companion Volume with New Descriptors)を公表しています。この増補版は、A1の下にPre-A1というレベルを設定したり、A2、B2、C2の各段階の中にA2+、B1+、B2+といったレベルを設定したり、ICTを使ったコミュニケーションを想定した能力記述の変更などが行われたりしています。これによって従来の6段階のスケール自体が変わったわけではありません。このため、増補版に対応して文部科学省が示している「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」が変わることはありません。

なお、海外の大学への入学資格や在留資格等の審査などにおいても、一般的に、引き続き従来どおりの6段階スケールが活用されているものと承知しています。

Q6 「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」は今後、見直すことはあるのでしょうか。直前になってスコアとCEFRの見込みが変更されたりしないでしょうか。

A

各資格・検定試験が出題方法や内容を変更すること等により、各試験のスコアとCEFRのレベルとの対応関係自体を変更する場合には、「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」自体も修正することになります。

直前の変更により受験生が不利益を被ることがないように、各試験実施主体には、見直しを行う場合には試験実施の前々年度までに報告することを求めています。

ます。

2020年度に実施される資格・検定試験は、現在のCEFR対照表（2018年3月文部科学省作成）を適用して実施します。

Q7 各資格・検定試験の難易度が上がったり下がったりして不公平な状況が生じることはありませんか。各試験実施主体が、意図的に難易度を引き下げたりしないでしょうか。

A

今後「大学入試英語成績提供システム」を運用していく中で、各資格・検定試験のスコアとCEFRとの対応関係を見直す必要性が生じた場合には、文部科学省及び大学入試センターは、各試験実施主体にCEFRとの対応関係を適切に見直すよう促します。

このような観点から、毎年、各試験実施主体に対し、資格・検定試験が安定して適切に実施されていることを確認するため、平均スコアの推移や得点分布の報告を求めることとしています。

## 5 . 試験実施会場について

Q 1 参加試験の令和 2 年度の実施日程と試験実施会場はどうなっていますか。

A

参加試験の令和 2 年度の試験日程に関する情報の一覧は、以下に掲載していますので御参照ください。

[全試験の実施日程一覧（令和元年 8 月時点）\( P D F \)](#)

また、各参加試験の試験日程と試験実施会場は、以下に掲載していますので御参照ください。

なお、より詳細な情報については、各試験実施主体にお問い合わせください。

[ケンブリッジ英語検定（ケンブリッジ大学英語検定機構のサイトヘリンク）](#)

[IELTS（IDP：IELTS Australiaのサイトヘリンク）](#)

[IELTS（ブリティッシュ・カウンシルのサイトヘリンク）](#)

[TOEFL iBT（CIEEのサイトヘリンク）](#)

[GTEC（ベネッセコーポレーションのサイトヘリンク）\( P D F \)](#)

[TEAP及びTEAP CBT（公益財団法人日本英語検定協会のサイトヘリンク）\( P D F \)](#)

[英検 C B T、英検 2020 1day S-CBT 及び英検 2020 2days S-Interview（公益財団法人日本英語検定協会のサイトヘリンク）\( P D F \)](#)

Q 2 参加試験の令和 2 年度の実施日程と試験実施会場の正式な発表はいつでしょうか。

A

令和元年の 1 1 月頃までには公表される予定です。

Q 3 受験希望者のニーズを満たせるよう、試験実施会場は確実に確保されるでしょうか。

A

文部科学省では、昨年度、全国の高等学校に対し、参加試験の受験ニーズ調査を実施し、調査結果を試験実施主体に提供するとともに、受験ニーズを踏まえた試験会場の設定を依頼しているところですが、試験の実施日程の公表や、大学による参加試験の活用の有無・活用方法の公表等により、受験ニーズに変化が生じていることが考えられます。

このため、大学等に対し、会場を提供するよう依頼するとともに、高等学校関係者の意向も踏まえつつ、再度調査を実施して試験実施主体に結果を提供し、受験機会の確保を依頼することを検討しています。

Q 4 地域によっては受験できる参加試験が限られるのではないのでしょうか。

A

資格・検定試験の大学入試英語成績提供システムへの参加要件においては、毎年度 4 月から 1 2 月までの間に複数回の試験を実施すること。

当該複数回の試験は、原則として、毎年度全都道府県で実施すること。

ただし、当分の間、受験希望者が著しく少ない地域では、近隣の複数県を併せた地域で合同実施することができる。この場合であっても、全国の各地の計 1 0 か所以上で複数回の試験を実施していること。

その試験に申し込んだ受験希望者の受験機会の確保に努めること。

と定められています。

上記 のとおり、受験希望者の受験機会の確保に努めることが参加要件になっていることも踏まえ、文部科学省としては、試験実施主体に対して、ニーズ

に応じた会場設定がなされるよう依頼してまいります。

## 6. 検定料について

Q1 参加試験の検定料はどうなっていますか。

A

参加試験の検定料は以下の表のとおりです。

### [各資格・検定試験の実施概要 \(PDF\)](#)

Q2 検定料について、経済的に困難な受験生への割引などの配慮はないのでしょうか。

A

大学入試センターが定める大学入試英語成績提供システムへの資格・検定試験の参加要件として、受験生の負担に配慮し、「経済的に困難な受験生への配慮など、適切な検定料であることを公表していること」等を設けています。

検定料は各試験実施主体の判断により設定されていますが、経済的に困難な受験生（ ）への配慮として、受験料減免の配慮が行われる場合があります。

例えば、TOEFL iBT については、通常の検定料よりも15%減額する予定となっています。

受験料減免を希望する者は、大学入試センターに受験料減免対象者（ ）であることを申請・登録された上で、受験する資格・検定試験の定める手続きに従って受験申込時に改めて申請する必要があります。

詳細は、大学入試センター作成の「共通 ID 発行申込案内（令和元年9月2日公表予定）」を御参照ください。

#### 減免対象者の範囲

共通 ID 発行申請時に日本国内に住民票を有し、次の ~ のいずれかに該当する者

住民税所得割非課税世帯の者

生活保護（生業扶助）世帯の者

文部科学省「高校生等奨学給付金」受給者



各資格・検定試験の実施概要（PDF）

Q 3 今回拡充される給付型奨学金において、大学等の受験料は含まれていますか。

A

給付型奨学金は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生に対し、学生が学業に専念するため、学生生活を送るのに必要な学生生活費を賄えるよう措置するものですが、学生の受験機会を確保するという観点から、その所要額の算定にあたっては大学等の受験料（英語資格・検定試験の検定料を含む。）も含まれています。

高等教育の修学支援新制度（PDFへリンク）

Q 4 大学等の受験料はどの程度積算されていますか。実際に受験をしなかった場合、減額するのですか。

A

給付型奨学金の額は、日本学生支援機構（JASSO）の学生生活調査などをもとに学生の支出の水準を総合的に勘案し、学業に専念するために必要な学生生活費を賄えるような額となるよう設定しています。

給付型奨学金は定額を措置し、用途を限定しないものであるため（内訳を示すことにより、用途が限定されるような誤解を与えることから）費目ごとの計上額（給付額の内訳）ではなく、実際の給付額のみを示しています。

このため、実際に受験をしなかった場合も、特に減額等はいりません。

## 7. 障害のある受験生への配慮について

Q1 参加試験においては、障害のある受験生への配慮はなされるのでしょうか。

A

大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験については、参加要件として「障害等のある受験生への合理的配慮をしていることを公表していること」を求めており、資格・検定試験ごとに、障害の種類や程度により配慮する事項の例を公表しています。具体的な内容については、以下の資料を御覧ください。

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（ケンブリッジ英語検定）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（IELTS（IDP））（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（IELTS（ブリティッシュ・カウンシル））（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（TOEFL iBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（GTEC）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（TEAP）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検CBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検2020 1day S-CBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検2020 2days S-Interview）（PDF）](#)

Q2 障害が理由で特定の技能検定を受験できない場合、成績提供はどのように行われますか。

A

例えば、障害の種類や程度により一部技能が免除されている場合、当該技能についてのスコアは表示されないが、全体スコアはその他に受験した技能のテストの平均値から算出されるスコアが表示されるなどの配慮があります。

参加試験により詳細は異なりますので、具体的な内容については、以下の資料を御覧ください。

[各資格・検定試験の実施概要（PDF）](#)

## 8 . 各大学での参加試験の成績の活用の有無や活用方法について

Q 1 各大学の参加試験の活用の有無や活用方法はどのようになっていますか。

A

国公立大学・短大等の参加試験の活用の有無や活用方法についての情報を以下に掲載しています。

国立大学一覧

公立大学一覧

私立大学一覧

専門職大学一覧

短期大学一覧

専門職短期大学一覧

文部科学省では、活用方法を公表していない大学に対しては、速やかな公表を要請しておりますが、引き続き、募集単位及び選抜方法（総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜）ごとの利用方法について、公表を強く求めてまいります。

また、大学入試英語ポータルサイトにおいても順次情報を更新して掲載します。

Q 2 大学入試に活用する参加試験は、大学によって異なるのでしょうか。

A

文部科学省では、大学に対しては、可能な限り活用する参加試験の種類を限定しないよう依頼しているところですが、入試の具体的な実施方法については大学が入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて決定する事項であるため、大学や学部学科等によって異なることがあります。

このことについては、以下に掲載しています。

国立大学一覧

公立大学一覧

私立大学一覧

専門職大学一覧

短期大学一覧

専門職短期大学一覧

受験生におかれては、志望する大学の参加試験活用の有無や方法等を事前によく確認するようにしてください。

Q3 大学の中には「CEFR 対照表に基づく段階別表示」のA1レベル以上を出願資格とする大学がありますが、検定料を支払ってまで受験する意義はないのではないのでしょうか。

A

大学入試において、「CEFR 対照表に基づく段階別表示」のどの段階以上を出願資格とするかは、各大学が、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて決定する事項ですので、その考え方については、各大学において説明がなされるべきものです。

## 9 . 例外措置について

Q 1 「大学入試英語成績提供システム」の成績提供の対象には、例外措置があると聞きましたが、どのような内容でしょうか。

A

「大学入試英語成績提供システム」による提供の対象となる成績は、原則として、受験年度の4月～12月に受験した2回までの参加試験の成績に限ることとしていますが、以下の3つの例外を設けています。詳細は、「大学入学共通テスト実施方針（追加分）」（平成30年8月）を御参照ください。

### （例外措置1）

高校2年時に「大学入試英語成績提供システム」参加試験を受験し、文部科学省が公表している「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」のB2以上に該当する結果を有する者で、次の又はのいずれかの負担を軽減すべき理由があり、かつ、高校の学びに支障がないと学校長が認めた者は、高校3年の4月から12月の2回に代えて、その結果を活用することができる。

#### < 負担を軽減すべき理由 >

非課税世帯であるなど経済的に困難な事情を証明できること

離島・へき地に居住または通学していること

### （例外措置2）

受験年度の4月から12月を含めた一定期間海外に在住していた者は、受験年度の4月から12月に受験した、参加試験と同種同名の海外の試験結果を活用することができる。

### （例外措置3）

病気等のやむを得ない事情により受験できなかった等の者であって、特別に配慮すべきとされた者については、受験年度の前年度の参加試験の結果を活用することができる。

Q 2 例外措置 1 における「経済的に困難な事情」の条件は何でしょうか。

A

「非課税世帯であるなど経済的に困難」な者の範囲は、高校 2 年生相当に該当する学年の 7 月 1 日時点で日本国内に住民票を有し、住民税所得割非課税世帯に該当する者とします。

ただし、高校 2 年生に該当する学年の 7 月 1 日の時点で確認される世帯の経済状況がその後急変することも想定されるため、高校 3 年生に該当する学年の 7 月 1 日時点で上記範囲に当てはまることが確認できるようになった場合には、例外的に本項の活用を希望する旨を追加で申し込むことを認めています。

Q 3 例外措置 1 の成績要件が B 2 以上である理由を教えてください。

A

高等学校 3 年間の英語教育を充実したものとする観点から、高等学校の英語の授業を超える水準に到達していると認められる成績を要件とすることとし、これを「CEFR の B 2 以上」としています。

Q 4 受験年度の 4 月から 12 月までの間に、一定期間海外に在住していた者は、受験年度の 4 月から 12 月までの間に受験した、参加試験と同種同名の海外の試験結果を活用することができるということですが、その条件はどのようなものですか。

A

受験年度の 4 月 1 日から 12 月 1 日までの間に海外に在住していた期間が通算 120 日以上の場合に認められます。

この「120 日」は連続した期間である必要はなく、例えば、海外に在住している者が日本に一時帰国し、その後海外に戻ったような場合でも、海外に在住している期間が合計で 120 日以上であれば対象に含まれます。

Q 5 受験年度に、病気等のやむを得ない事情により受験できなかった場合、

受験年度の前年度の参加試験の結果を活用することができるのですが、その条件等はどのようなものですか。

A

「病気等のやむを得ない事情により受検できなかった等の者であって特別に配慮すべきとされた者」については、受験年度の4月1日から12月1日までの期間中、病気やけがにより入院していた期間が通算90日以上のものであること、かつ、受験年度に「大学入試英語成績提供システム」に登録された試験結果が2回に満たない者として扱います。例えば、受験前年度に1回、受験年度に1回というパターンも可能です。また、受験年度に入院した後に回復し、1回受験するという場合も対象となります。

Q6 病気等のやむを得ない事情により高校3年時に受験できなかった場合、高校2年時の成績の活用を認める例外措置を定めていますが、万が一に備え高校2年生のうちに資格・検定試験を受験しておいた方が良いでしょうか。

A

「大学入試英語成績提供システム」に参加する資格・検定試験については、受験生の負担や受験準備の早期化等に伴う高等学校教育への影響に配慮し、原則として、受験年度の4月から12月に受験した2回までの成績を活用することとしています。

しかしながら、高校3年時に、病気等の理由で長期間入院しなければならず、試験を受験することができなかった受験生に対しても、一定の配慮が必要という考えのもと、本例外措置を設けており、高校2年時の受験を推奨しているものではないということに御留意ください。

Q7 上記1～3の例外措置を利用する場合の申請方法、必要書類はどうなっていますか。

A

1～3で申請方法・必要書類は異なっており、以下のとおりです。

1. 「大学入学共通テスト実施方針（追加分）運用ガイドライン」P7～8を御参照ください。本項の申込時期については、別途大学入試センターの作成す



る手引き等を御参照ください。なお、本項を活用するための申込みを行う時点で、既に共通IDを登録した上で申し込んだ参加試験を1回でも受験している場合には、その試験の結果がシステムに登録され、前年度に受験した試験の結果は登録できません。

2. ガイドラインP10～11を御参照ください。本項の申込時期については、別途センターの作成する手引き等を御参照ください。なお、本項を活用するための申込みを行う時点で、既に共通IDを登録した上で申し込んだ参加試験を2回受験している場合には、その試験の結果がシステムに登録され、海外で受験した試験の結果は登録できません。

3. ガイドラインP14を御参照ください。本項の申込時期については、別途センターの作成する手引き等を御参照下さい。なお、本項を活用するための申込みを行う時点で既に共通IDを登録した上で申し込んだ参加試験を2回受験している場合には、その試験の結果がシステムに登録され、前年度に受験した試験の結果は登録できません。

Q8 既卒者は、受験年度の前年度の試験結果も、大学入試英語成績提供システムの成績提供の対象となるのですか。

A

既卒者の成績については、受験年度の4月から12月の2回までの試験結果と併せて受験年度の前年度の試験結果も提供できるものとし、大学の判断により活用することができます。

なお、この既卒者が受験年度又は受験年度の前年度に一定期間海外に在住していた場合には、当該時期に受験した、参加試験と同種同名の海外の試験結果を提供することができます。

ただし、令和3年度入試は、令和元年度の高校2年生が共通IDの発行を受けて受験する初年度となるため、令和元年度の高校3年生が既卒者となった際に、前年度の試験結果（高校3年生のときに受験した試験結果）は共通IDが

付与されていないことから、大学入試英語成績提供システムの成績提供の対象となりませんので注意してください。

Q 9 既卒者については、なぜ受験年度に加え、その前年度の成績が大学入試英語成績提供システムの成績提供の対象となるのでしょうか。

A

受験生の負担、高等学校への影響（例：早期から試験対策に追われるとの懸念）を考慮し、大学入試英語成績提供システムから、各大学に送付する試験結果は、高校3年生の4月～12月の2回までとしています。既卒者については、受験年度の4月から12月の2回までの試験結果と併せて、受験年度の前年度の試験結果も提供できることとしました。ただし、受験年度の前年度の試験結果を活用するか否かは大学の判断によりますので注意してください。

## 10 . 共通 I D について

Q 1 共通 I D とはどのようなものですか。

A

「大学入試英語成績提供システム」で集約・提供する成績情報を個人ごとに識別・管理する必要上、全ての資格・検定試験共通で個人を特定するためのコード（識別番号）です。一人につき一つに限り、大学入試センターが発行します。

Q 2 共通 I D の有効期限はどうなっていますか。

A

共通 I D の有効期間は約 2 年間です。令和元年 11 月 1 日から令和 2 年 9 月 10 日までに申込みを行った共通 I D は、発行後令和 4 年 3 月 31 日まで有効で、令和 2 年及び 3 年の 4 月から 12 月までの資格・検定試験の受験で利用できます。有効期限後も共通 I D を使用する場合は、有効期限が切れる前に更新手続きが必要です。

Q 3 共通 I D の発行申込には料金がかかりますか。

A

共通 I D の発行申込に当たり、料金はかかりません。

Q 4 大学入学共通テストを受験する予定がない場合でも、共通 I D を申し込むことはできますか。

A

申し込めます。

「大学入試英語成績提供システム」による成績提供は、大学入学共通テストを利用しない選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用が可能です。各大学の「大学入試英語成績提供システム」の活用の有無や活用方法は、「8 . 各大学での参加試験の成績の活用の有無や活用方法について」及び各大学の公表情報を確認してください。

なお、共通 ID は取得した上で、利用しないことも可能です。

Q 5 令和元年度の高校 2 年生の共通 ID の申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。

A

令和元年度の高校 2 年生については、高等学校を經由して申込みを行います。学校でとりまとめて一括で申込みを行うため、一人ひとりの「本人確認証明書」は不要であり、必要書類は「共通 ID 発行申込書」のみです。申込期間は、以下の 2 通りあります。

集中発行申込期間：令和元年 11 月 1 日（金）～11 月 14 日（木）（消印有効）

追加発行申込期間：令和 2 年 1 月 27 日（月）～9 月 10 日（木）（消印有効）

共通 ID は、「共通 ID 通知はがき」に印刷してお知らせします。圧着はがきであるため、中身は開封するまで見えません。「共通 ID 通知はがき」は、大学入試センターから、在学している高等学校等（通信制課程は申込者本人）に以下の時期に送付します。申込者本人には、高等学校から配付されます。

集中発行申込期間申込分：令和 2 年 1 月中旬頃までに送付

追加発行申込期間申込分：大学入試センター受理後、原則 30 日以内に送付

Q 6 令和元年度の高校 3 年生の共通 ID の申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。

A

令和元年度の高校 3 年生については、令和 2 年度以降の受験可能性に備えて、共通 ID の発行を行うことができます。

以下の 2 通りの方法があります。

（1）個人による直接申込み

必要書類を大学入試センターに郵送してください。「共通 ID 発行申込書」

に加えて住民票等の「本人確認証明書」が必要です。

申込期間は、以下の2通りあります。

集中発行申込期間：令和元年11月1日（金）～11月14日（木）（消印有効）

追加発行申込期間：令和2年1月27日（月）～9月10日（木）（消印有効）

共通IDは、「共通ID通知はがき」に印刷して、以下の時期に申込者本人に直接送付します。

集中発行申込期間申込分：令和2年1月中旬頃までに送付

追加発行申込期間申込分：大学入試センター受理後、原則30日以内に送付

## （2）学校経由申込

在学している高等学校で、学校経由申込を行えるかどうか確認してください。学校でとりまとめて一括で申込みを行うため、一人ひとりの「本人確認証明書」は不要であり、必要書類は「共通ID発行申込書」のみです。

申込期間は、令和元年12月2日（月）～12月10日（火）（12月10日消印有効）です。

この期間に申し込んだ場合は、令和2年2月中旬頃までに「共通ID通知はがき」を申込者本人に直接送付します（学校での配付は行いません）。

Q7 既卒者の共通IDの申込手続、必要書類、申込期間、通知時期はどうなっていますか。

A

既卒者については、「個人による直接申込み」をしてください。

必要書類を大学入試センターに郵送してください。

「共通ID発行申込書」に加えて住民票等の「本人確認証明書」が必要です。

申込期間は、以下の2通りあります。

集中発行申込期間：令和元年11月1日（金）～11月14日（木）（消印有効）

追加発行申込期間：令和2年1月27日(月)～9月10日(木)(消印有効)

共通IDは、「共通ID通知はがき」に印刷して、以下の時期に申込者本人に直接送付します。

集中発行申込期間申込分：令和2年1月中旬頃までに送付

追加発行申込期間申込分：大学入試センター受理後、原則30日以内に送付

Q8 共通ID通知はがきを紛失した場合、記載内容を修正・変更したい場合、どうすればよいですか。

A

共通IDとパスワードがわかる場合は「英語受験状況確認システム」にログインし、登録情報を確認することが可能です。

また、高等学校等の在学者で共通IDがわからない場合は、「英語受験状況確認システム」の高等学校等(通信制課程を除く。)用の専用ページから教職員が登録情報を確認することが可能ですので、高等学校等の教職員に確認して下さい。

共通ID通知はがきの紛失により初期パスワードが不明な場合等は、大学入試センターにご連絡ください。

=====

大学入試センター 志願者問合せ専用電話

TEL:0570-024-550(ナビダイヤル)

上記ナビダイヤルが繋がらない方：03-3465-8600

9:30～17:00(土・日曜、祝日、12月29日～1月3日を除く)

提供される資格・検定試験の成績の確認期間を除く。

=====

記載内容を修正・変更したい場合は、「英語受験状況確認システム」から手続ができます。なお、Web環境がない場合には、「共通ID発行申込案内」綴込みの「登録内容修正・変更届」による申請をしてください。

Q 9 参加試験の受験申込時に、共通IDを誤って記入した場合はどうなりますか。

A

参加試験の受験申込時に共通IDを誤って記入した場合は、当該参加試験を受験しても大学入試英語成績提供システムに成績は登録されません。参加試験受験後の共通IDの修正はできないので、注意してください。

共通IDの誤記入によって成績が無効となることを防ぐため、受験申込時に記入された共通IDが正しいかを受験前に確認できる「共通ID事前確認機能」を設ける参加試験もあります。この機能の有無は、各資格・検定試験の公表情報から御確認ください。

Q 10 参加試験の試験日に欠席した場合はどうなりますか。

A

実施当日に全く受験しなかった場合は、欠席の理由によらず、その成績は大学入試英語成績提供システムに登録されず、原則として、2回までのうちの1回分に該当しませんので、この1回分については機会を改めて受験することが可能です。ただし、自己都合により欠席した場合の再受験の扱いは以下のとおり団体により異なります。詳しくは各団体にお問い合わせください。

実施主体名	試験名	対応
Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定	再受験は可能だが、再度受験申込・受験料の支払いが必要。
IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS)	
ブリティッシュ・カウンシル		
Educational Testing Service	TOEFL iBT®テスト	
株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC	原則、受験者都合による欠席の場合は、再受験は認めない予定。
公益財団法人日本英語検定協会	TEAP、TEAP CBT、英検	再受験は認められず欠席となる。

Q 1 1 参加試験の受験中に、途中退出した場合の成績はどうなりますか。

A

途中退出等ごく一部でも受験した場合（解答を記入しない場合を含む。）は、2回までのうちの1回分に該当し、大学入試英語成績提供システムに登録されます。受験後に、大学への成績提供を取り消すことはできません。

Q 1 2 大学入試英語成績提供システムに登録された2回までの成績の中で、大学出願時に提供される成績を自分で選ぶことはできますか。

A

受験した参加試験の中から、受験後に大学への成績提供対象を選ぶことはできません。また、共通IDを用いて申込みをした参加試験の受験後に、大学への成績提供を取り消すことはできません。共通IDを記入して受験した2回までの成績がもれなく大学へ提供されます。

Q 1 3 共通IDを記入して参加試験を1回のみ受験した場合、大学への提供対象成績はどうなりますか。

A

共通IDを記入して受験した1回分の成績のみが大学に提供されます。

Q 1 4 共通IDを記入して、参加試験を3回以上受験した場合、どの成績が大学へ提供されますか。

A

共通IDを3回以上記入して参加試験の受験申込みをした場合は、参加試験の実施日（試験実施日が複数にわたる試験の場合は、最初の日）が早い順に2回までの成績を大学への成績提供の対象とし、その他の成績は大学への成績提供の対象となりません。

Q 1 5 参加試験の受験時に不正を行った場合、大学入試英語成績提供システムに登録された成績はどうなりますか。



A

参加試験の受験時に不正を行った場合、当該年度に大学入試英語成績提供システムに登録された成績は、全て無効となります。どのような行為が不正の対象となるかについては、各試験実施主体のホームページ等で確認してください。

なお、共通IDは一人につき一つに限り発行します。有効期限内（令和4年3月31日まで）に複数の共通IDを発行すると、不正行為とみなされ、大学入試英語成績提供システムに登録された当該年度の成績は、全て無効となります。

Q16 共通IDを用いて受験した参加試験に関する情報の確認はできますか。

A

「英語受験状況確認システム」から「資格・検定試験名」「受験日」及び「大学への成績提供開始日」が確認できます。

CEFR 段階別表示やスコア等の成績結果に関する情報については、試験実施主体が発行する成績証明書等で確認いただきます。詳細については、各試験実施主体に確認してください。

Q17 「英語受験状況確認システム」では何ができますか。

A

以下の2つのことができます。

記載内容を修正・変更したい場合の手続

共通IDを用いて受験した「資格・検定試験名」「受験日」及び「大学への成績提供開始日」の確認

## 11. 参加試験の申込について

Q1 参加試験にはどのように申し込むのでしょうか。

A

個人がウェブ上で申し込む方法をとるケースが多いですが、詳細については以下の資料から確認してください。

### [各資格・検定試験の実施概要（PDF）](#)

なお、試験結果を大学入試英語成績提供システムにより大学に提供することを前提に申し込む場合には、共通IDを記載してください。記載がない場合、試験結果は、大学入試英語成績提供システムに登録されません。

## 12. その他

Q1 2024年度以降、民間の英語資格・検定試験に一本化されるのですか。

A

大学入学共通テストの英語試験については2023年度までは実施することとされていますが、2024年度以降の取扱いについては、英語の資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、今後検討することとしています。

Q2 なぜ、2023年度までは民間の英語資格・検定試験と大学入学共通テストの「英語」を併用するのですか。

A

英語の資格・検定試験の活用の具体化に向けた検討段階において、資格・検定試験を活用する場合の共通テストの英語試験の取扱いについて、以下の2案を高等学校・大学等の関係団体や有識者に意見を求めるとともに、同時にパブリック・コメントも行いました。

以下、「大学入学共通テスト実施方針策定に当たっての考え方」(抜粋)

A案

平成32年度以降、共通テストの英語試験を実施しない。英語の入学者選抜に認定試験を活用する。

B案

共通テストの英語試験については、制度の大幅な変更による受検者・高校・大学への影響を考慮し、平成35年度までは実施し、各大学の判断で共通テストと認定試験のいずれか、又は双方を選択利用することを可能とする。

上記2案に対して提出された意見としては、英語の4技能を評価することについては総論として賛同する方が多い一方で、B案としつつ共通テストとして英語試験の継続実施を強く要望する意見(全国高等学校長協会)や、共通テスト英語試験の廃止は認定試験の実施・活用状況を検証した上

で判断すべきとする意見（国立大学協会）、導入時期も含め慎重な検討を促す意見（都道府県教育長協議会）など、A案に否定的で、かつ、共通テストで英語を継続して実施すべきとする意見が多かった。

このような意見を踏まえ、共通テストの英語試験については、制度の大幅な変更による受験者・高等学校・大学への影響を考慮し、資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、2023年度までは実施し、各大学の判断で共通テストと資格・検定試験のいずれか、又は双方を選択利用することを可能としています。

Q3 なぜ、大学入学共通テストの「英語」の配点を「英語（リーディング）」を100点、「英語（リスニング）」を100点としたのですか。

A

大学入試センターが令和元年6月に公表した「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」において、「グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「英語（リーディング）」と「英語（リスニング）」の配点を均等とする」とされています。（民間の資格・検定試験においても4技能を均等に配点しています。）

ただし、個別入試において、それぞれをどのような比重で評価するかは、大学入学共通テスト（英語）の趣旨を踏まえつつ各大学が適切に判断することとなります。